

**令和5年度 第2回こまきこども未来館講座運営会議  
会議要旨**

<b>日時</b>	令和6年2月6日（火）午後6時～午後7時
<b>場所</b>	こまきこども未来館 クラブ室（ラピオ3階）
<b>出席者</b>	<p>【委員】5名（※敬称略） 玉置崇、長江美津子、植松浩二郎、采女隆一、熊澤嘉乃（1名欠席）</p> <p>【事務局】7名 こども未来部長、こども未来部次長、多世代交流プラザ所長、事業推進係長、係員（5名）</p> <p>NPO 法人10人村（受託者）（2名）</p> <p>【傍聴者】なし</p>
<b>会議資料</b>	<p>次第</p> <p>資料1（こまきこども未来館体験ひろば令和5年度実施内容） 資料2（こまきこども未来館体験ひろばアンケート調査結果） 資料3（こまきこども未来館ワークショップ便り） 資料4（こまきこども未来館体験ひろば令和6年度実施計画） 資料5（こまきこども未来館運営会議 補足資料）</p>
<b>会議内容</b>	<p>1 こども未来部長あいさつ</p> <p>2 議事</p> <p>（1）令和5年度講座等実施報告について</p> <p>（2）令和6年度講座等実施計画（案）について</p>
<b>会議要旨</b>	<p>1 <u>こども未来部長あいさつ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こまきこども未来館については、令和3年3月のオープン以来、コロナ禍で運営が続いていたが、昨年5月から新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行となり、その後も必要な感染症対策を継続しつつも、大きな制限もなく、順調に運営することができている。</li> <li>・12月末時点の来館者が約23万人であり、当初の目標である30万人に達する勢いで、日々運営を行っている。</li> <li>・「体験ひろば」においても、子どもたちの安全・安心に配慮しつつ、コロナ禍以前よりも活発に諸活動を行える状況となっている。引き続き地元企業や団体のボランティアの方々に協力いただきながら、交流・体験 CAMP の充実を図り、また、子どもたちの意見を聞きながら、様々な体験講座を開催している。</li> <li>・本日の会議は、この「体験ひろば」の今年度の実績報告と、来年度の計画案に対し、それぞれのご見地からご意見をいただき、より充実した講座の実施につなげていく場としたいと考えておりますので、委員の皆様には、忌憚のないご意見をいただきたい。</li> </ul> <p>2 <u>議事</u></p> <p><u>（1）令和5年度講座等実施報告について</u></p> <p>事務局 ※事務局より資料1・2・3の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流・体験 CAMP の「おしごと職業体験」について、こども参画の取り組</li> </ul>

みを外部のサポーターと一緒にやることの仕掛けとして、職業観の体験イベントを7月に実施した。内容としては、企業で働く方々の職業観をもとに、「スライム村」という架空の村をフィールドにロールプレイングし、子どもたちがグループワークを通じて遊びながら学んでいく、というイベントである。

- ・8月には「こまき冒険スライム村」と銘うって、一週間に渡るこども参画イベントを実施した。その準備として、6月中旬から実行委員の子どもたちが集まり、週一回のワークショップを重ね、企画から実施、運用・振り返りに至る挑戦的な取り組みを進めた。実行委員として65名の参加があり、また、イベント自体の参加者数については884名だった。ここには、保護者が入ることができないとしていたため、イベントの中でトラブルが起こったときは子どもたちが解決していくという、児童館の持つ拠点性を活かして、トライ&エラーをする環境づくりを、地域の方々の協力のもと実施することができた。
- ・ハロウィン多文化交流については、昨年度はサポーターが中心に行っていたが、今年度は子どもたちもブースを設けて、来館者と一緒にレクリエーションを楽しむことができた。クリスマス季節行事についても、一部の装飾を子どもたちが担った。
- ・中高生の利用促進には、まずは近隣の高校との連携づくりを進めていくことが必要であると考え、11月に小牧工科高等学校、12月末に小牧高等学校との連携イベントを実施した。今年度は、来年度以降の中高生利用促進に向けての関係づくりに重点を置いた。
- ・来館者やサポーターの声を聞く取り組みとして、来館者に向けたアンケート調査を実施し、また、地域のサポーターや保護者を対象としたワークショップを開催した。
- ・「みんなで育てようワークショップ」では、普段子どもたちが遊んでいるデジタルコンテンツ（動画制作、音楽制作等）を大人も体験し、さらに楽しく遊ぶアイデアや学びにつながる方法についてグループディスカッションを行い、意見等をいただいた。その中で、デジタル作品の発表の場があるといいという声があり、職員講座にて開催しているデジタル隊というデジタルデバイスを使った講座にて早速取り入れ、デジタル隊に参加している子の保護者からも好評だった。今後も継続していく。
- ・アンケート結果について、「子どもたちを主体とした高齢者向けのデジタル講座を開催してほしい」という声があった。この下準備として、子どもが講師になって、子どもや職員に自分の得意なことを教える「こども講師講座」を2月11日（日）に開催する予定である。ゆくゆくは保護者にも参加していただいて、子どもたちが活躍できる場を作っていきたい。中高生のアンケートでは、体験ひろばに来たことがある割合が約半数であった。体験ひろばで何ができるかわからない、また、3階自体が中高生も利用できることを知らないという割合が高く、周知が改めて必要であることがはっきりとわかってきた。高校との連携を行うほかに、図書館との連携講座も開催し、周知活動がより活発に行えるよう、来年度に向けて計画していきたいと考えている。中高生から、Wi-Fiの利用についての要望が増えている。こども家庭庁の調査にも、「デジタル空間が子どもたちの居場所として

<p>玉置委員</p>	<p>非常に大きなものになっている」とあり、来年度以降、さらに中高生とのコミュニケーションをとっていき、使い方を考えていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見の中に「一部の職員が、子どもに話すときの言い方が良くない」というものがあった。体験ひろばの職員のことなのか、その他の職員のことなのか不明であるが、職員間で内容を共有し、普段からどういった声かけをしているかをモニタリングし、個別にカウンセリングしていく。</li> </ul> <p>《質疑応答》</p> <p>未来リテラシーコンクールとはどのようなものか。実践例はあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>3月2日（土）、3日（日）の2日間で開催予定。企業が未来の社会について考えていることをプレゼンテーションし、それを子どもたちが審査をするというコンクールを開催する。自分の意見を述べられるようになるには、まず人の話を聞いて、自分の考えを見つけるということが大事であると思われる。1日目に、客観的な思考を育てるのを目的とした、審査員になるためのワークショップを開催し、2日目に審査会を行う。</p> <p>子どもが審査員になる実践例としては、食品メーカーが「どちらの食品がおいしいか」を子どもの審査で決めたり、また、街づくりの事例としてキッズショーというアイデア提案に対して子どもたちが投票したりするものがあった。</p> <p>スライム村の実行委員の間で、どうしても自分たちの思いで進めてしまっ、他の子の意見を聞かないというトラブルがあった。人にはいろんな意見があるんだということを知る場を設けていきたい。</p>
<p>采女委員</p>	<p>中学生や高校生にこんなことを育みたい、という大まかなカテゴリーや到達目標はあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>明確にはない。小学生までは受け手で与えられる側だったのが、中高生になると自分の方から与える側が変わっていく。そういう関わり方の機会があると、もっと興味を持って来館してもらえるのではないかと考える。例えば、子どもたちの演奏を来館者に聴かせる場を企画するなど考えているところである。</p> <p>来年度からは、2階の交流ひろばに児童厚生員を閉館の夜8時まで配置する。色々と中高生との関わりについて取り組みをおこなっているが、まだまだコミュニケーションが不足していることが実状であり、まずはよく交流ひろばに遊びに来ている中高生との関係性を築きたい。中央図書館には中高生が多く来館しているが、図書館内で問題行動を起こしている子が多いと聞く。そういう情報を未来館も共有し、対象の子たちにも未来館を認知してもらい、ふらっと遊びに来られるような環境にしていきたい。中高生にこういう体験をしてほしいというのと併せて、まずは居場所づくりとして未来館を認知してもらおうことから始めていきたい。</p>
<p>長江委員</p>	<p>アンケートの取り方について、丸付け方式だと、実際に子どもが体験をした中で、どんなことが楽しかったのか等を把握することはできる。反面、今</p>

	<p>後さらに内容や活動経験を豊かに広げていこうとするならば、丸付け方式だと企画する側の意図が入り、幅を狭めることに繋がらないのか。項目のあげ方や聞き取り方が難しいと思うが、どのような考えでアンケートの質問を取っているか。</p>
事務局	<p>項目に丸を付ける方式である。また、自由回答の枠も設けている。例えば、小学生向けのアンケートなら、Q.8が選択式、Q.9が自由記述としている。</p> <p>Q.8について、カテゴライズすることにとっても悩んだ。カテゴライズしないと分かりづらく、逆にカテゴライズすると恣意的になってしまう。前年度と比較するために、毎年同じ項目を使っているが、このままでいいのかと悩んでいる。例えば「プログラミング」の割合が高いが、プログラミングといっても色々あるため、自由回答を設けてはいるが、対面で聞き取っているわけではないので、回答者の意図が伝わりづらい。もっとこういうカテゴライズにした方がいいというアドバイスがあればいただきたい。</p>
長江委員	<p>例えば「工作」といっても、年齢によって興味関心があるものが異なる。どんな目的やねらいで行うのか、どんな素材に触れさせたいのか、どんな物に触れたり使ったりするのか等も、年齢によって変わってくると思う。</p>
植松委員	<p>これらの活動が未来リテラシーを育むことに繋がっているか。</p>
事務局	<p>未来リテラシーには色々な意味合いがある。交流・体験 CAMP で6月に「デジタル新技術」を開催した。体験ひろば内でiPadを使い、YouTubeを観たり、ゲームをしたりしているが、保護者の中にはデジタルデバイスにネガティブイメージを持たれることがある。現在、小学校6年生でも半数以上がスマートフォンを持っているという状況であり、デジタルデバイスとの付き合い方を学ぶ場として、新しい技術はこういったことができる、また、こういう危険性があるということを感じていただくための機会を設けた。</p> <p>事例として、小学6年生の子が、家でパソコンばかりやっているが、何をしているかは分からない、やめさせたいという保護者からの相談があった。その子は未来館によく通い、プログラミングに詳しく、他の子に教えたり、低学年の子にパソコンの使い方をサポートしたりする動きが見られ、また、今後スクラッチを使った子ども向けワークショップに参加してもらう予定である。保護者に、そういった未来館での過ごし方を伝えると大変驚かれた。様々な体験を通して、本人の得意なことを知っていく、それが将来の職業選択につながるということも、未来リテラシーが育まれた状態と捉えられるのであれば、小さなエピソードではあるが、可能性を広げる場として、未来館が機能できたと感じた。</p>
植松委員	<p>そういう姿をたくさん拾って、どういったところがよかったかを集約し焦点化していく作業が大切だと思う。集約や焦点化にあたっては、それが未来リテラシーに繋がる姿かどうかの検討も必要である。</p>
熊澤委員	<p>アンケートの「体験ひろばにあるといいなと思う事」の回答を見ると、ドッジボールやボルダリングの記載がある。ドッジボールは5階のアリーナで</p>

行っており、また、ボルダリングは2階にあるため、もっと周知していけたらいいと思う。

(2) 令和6年度講座等実施計画(案)について

事務局

※事務局より資料4・5の説明

- ・令和6年度より受付業務と講座開催業務を一元化することになった。現在10人村として在席している職員がアルバイトも含め20人程度であるが、来年度からは50人程度に増える予定である。子ども対応についての質の向上を目指すには、職員一人一人の心理的安全性も加味していかないといけないと考えている。そこで、令和6年度の実施計画のビジョンを、『安心から小さな挑戦へ 遊びと学び、人と社会をつなぐ』とした。この「安心」とは、子どもたちのことだけでなく、職員の安心があった上で、子どもの声を聞く・見る・知ることができるという意味合いで掲げている。言葉を発することができる子どもだけではなく、未就園児に対してもどんな意思をもっているのだろうという意識を持つ。組織が大きくなることに踏まえて、子どもたちに安心して未来館を利用していただけているかという視点に戻り、日々取組んでいく。遊んでいるうちにいろんなことを学ぶ、挑戦できるようになるということを理想に掲げて、事業を行っていききたいと考えている。
- ・専門講師講座について、中高生向け講座を10回としているが、これは目標であり、まずは子ども達との関係性を作り、何を求めているか、交流ひろばでコミュニケーションを築いてきた児童厚生員や専門講師と話し合いながら、どのような方向性の講座を行うか決めていきたい。
- ・職員講座について、特に音楽系の講座に対する期待値が高いということがアンケート結果から見て取れたため、交流ひろばを中心に、担当職員による中高生向けの講座を展開していききたいと考えている。
- ・こども参画の課題である子どもの意見を述べる場として、現在、「未来館内でスマートフォンを使っていいか」というテーマで、子どもたちに意見を書いてもらうという取り組みを行っている。今後もいろいろなテーマで、子どもたちが意見を述べる場を増やしていきたい。
- ・こども講師について、講師をやってみたいという声が挙がってきている。中高生も取り組めるよう、職員がサポートしていく。
- ・職員においても、心理的安全性が不可欠になるため、「職員アップデート」として、人材育成、研修のスケジュールも実施計画に掲載した。受付業務をする職員にも、児童厚生員としての働きをしてもらうために、厚生員研修を行っていく。また、職員全体に、ビジネス研修や接遇研修を行っていく。

植松委員

《質疑応答》

これからの企業においては、ミッションの実現を7～8割くらいにし、社員(職員)のメンテナンスを2～3割くらいにしていくというのを聞いたことがある。これは大事なことだと思う。バリューに掲げている『職員にも“安心”を』については大賛成である。

講座については、講師やボランティアの力を活用することが大切であるが、

玉置委員	<p>職員との意思疎通を十分に図ってほしいと思う。</p> <p>小学生～高校生の自殺が全国的に増えてきている。1年間で400人を超え、1日あたり1人、誰かが命を絶っている計算になる。これから受付業務も担うということだが、ここだから安心して来られる、ここだから誰かに話してみようという心理的安全性が高ければ、相談に来ることや助けを求めに来ることもあるかもしれない。そういったことがあれば、職員の間で情報共有していただければと思う。</p> <p>不登校特例校では、登校している子が自己選択で登校している。自らやってみて、自ら振り返りをする自己責任で取り組まれていて、担任についても自分で自由に選んでいる。未来館は自己選択ができる場なので、バラエティに富んだ講座を開催していただき、自分で選ばせて、自分の学びはどうだったかを考えさせる機会を与えることを意識されると、より質の高い施設になると思う。</p>
長江委員	<p>こども講師という、子どもが持っている力を他の人に伝える、人のために使うという取り組みは、その子にとっての自信につながる良い機会であると思うので、期待している。</p> <p>中高生が未来館に何を求めているかについては、幅が広いと思う。例えば、大学生から、家庭環境が複雑で家に帰りたくないという話を聞いたことがある。高校生の中にも、そのような環境で、居場所を求めている子がいるのではないかと思う。未来館が、家に帰りたくないという事情を持った子をケアできる存在になったらいいと思う。</p> <p>未来リテラシーということで、どんどん新しいものを取り入れていくのも大事だが、日本が昔から持っている伝統文化、伝統行事というのが昭和40年頃から日本全体で薄れていっていることに危惧している。伝統的な遊びも取り入れてほしい。</p>
熊澤委員	<p>交流ひろばには、職員と顔見知りの、高校を卒業した年齢的に児童館の枠を離れた子たちが、働きに行けない、働くところがないと、遊びに来ている。また、図書館で問題行動を起こしていた子たちが、最初は2階の交流ひろばに来ていたが、5階のアリーナで身体を使って遊べるようになった。今は市職員の児童厚生員のみで関わっていたが、来年度からは10人村の児童厚生員にも関わっていただけなので、とても心強い。色々と子どもたちの声を聞きながら、協力し合って考えていきたい。</p>
采女委員	<p>実施計画を見ていくと、項目が多く、とても受け皿が幅広い。中高生の居場所づくりとして、一体どこまで広げていけるのだろうかと感じる。不登校の子から素行の良くない子まで、全部受け入れようとしていることはありがたい。</p> <p>中高生に向けてこの講座を行うとこんな姿があるといいな、同じ講座でも小学生を対象にしたらこんな姿があったらいいな、中高生に講師をやってもらったらどんな姿になるだろうか。学びには、意図的に出てくる学びの他に、偶然に出てくる学びがあると思う。SDGsの目標のように、何年後にはこう</p>

玉置委員	<p>なっていたいという逆算的にものを見る見方が学校教育の中ではとても大事だと思っている。未来館の中でも、こういう姿があるといいなというのを一つ一つ考えておいた方がいいと思う。</p> <p>学習指導要領を文部科学省が作成しているが、今は不登校がこんなに多いので、学校だけでなく広い範囲で居場所をつくるということで、キーワード「Well-being（ウェルビーイング）＝みんな幸せになりましょう」を掲げようとしている。子どもだけの幸せではなく、職員も幸せにならないといけないと改めて思う。一生懸命、事業に取り組んでいても、大きな事件が発生すれば、世間にマイナスに見られてしまう傾向にある。職員の人数が増えて大変になると思うが、そのあたりは気を付けていってもらいたい。</p> <p>【議事（１）（２）⇒事務局案で承認】</p>
------	---